

研修生フォローアップ・アンケート調査結果について

調査時期：

平成17年12月～18年2月

調査対象：

平成16年度研修生8人のうち6人（HICAREホームページ作成時に調査した2人を除く。）

回収率：

83.3% (5人/6人)

(内訳)

ブラジル	2人
カザフスタン	2人
ロシア	1人

集計結果：

1 HICARE研修全般についての印象

(1) 研修期間の長さ

区分	人数	割合(%)
A 適当	2	40.0
B 長い	1	20.0
C 短い	2	40.0
計	5	100.0

(注)

- ・「長い」と答えた研修生の研修期間は2か月。「短い」と答えた研修生の研修期間は1か月。

(2) 研修全般についての印象

区分	人数	割合(%)
A 大変良かった	4	80.0
B 良かった	1	20.0
C あまり良くなかった		
D 悪かった		
計	5	100.0

(理由)

- ・ この研修は、被爆者のことについて医療的・社会的保障を知ることができるまたとない機会だった。
- ・ 研修は異なった医療処置を知る機会を提供してくれた。
- ・ 研修についての私の印象は非常によかった。HICAREや私が研修を受けた原医研のスタッフが、私の広島滞在や研究、研修を充実したものにしよう全力を尽くしてくれた。
- ・ 研修期間が短く、期間中に消化できなかったものもあった。しかしHICAREのおかげで研修を受けて多くのことを見聞きできたのは、非常に嬉しかった。
- ・ 細胞学研究室の活動や診断センターの設備、医療機関スタッフの皆さんや指導者の方々に良くしていただいたことに感銘を受けた。

(3) 研修の難易度

区分	人数	割合 (%)
A 難しかった		
B 普通	4	80.0
C 易しかった	1	20.0
計	5	100.0

(理由)

- ・ 私達がカザフスタンで学んできた診断基準と、日本の専門家の診断基準が必ずしも一致しないため、細胞診断基準で戸惑うことがあった。
- ・ 多くの実験を行う必要があったため、研修はなかなか大変ではあった。
- ・ 多少言葉の問題があったが、皆様に温かく接してもらい、問題が和らいだ。

(4) 広島での生活

区分	人数	割合 (%)
A 大変良かった	4	80.0
B 良かった	1	20.0
C あまり良くなかった		
D 悪かった		
計	5	100.0

(理由)

- ・ HICAREの受け入れ態勢のおかげで、広島での滞在は快適で問題なく過ごすことができた。
- ・ 広島の町も好きだし、人々も私達にとっても良くしてくれた。
- ・ 原医研職員の方が自転車を貸してくれたので助かった。
- ・ 研修機関からあまり離れていない場所に、個室の宿泊所を設けてもらったので、住居面での問題はなかった。
- ・ コミュニケーションを図るうえで、時々言葉の問題があったが、英語を話す人を見つけることができたので助かった。

2 HICARE研修後の医療活動の状況

(1) 現在の医療活動へのHICARE研修の貢献度

区分	人数	割合 (%)
A 大変役立っている	4	80.0
B 役立っている	1	20.0
C あまり役立っていない		
D 役立っていない		
計	5	100.0

(理由)

- ・ 原爆被爆患者に見られる様々な健康上の問題点に関する知識を得ることができたので、ブラジルに住む被爆者の治療のため大変役立っている。
- ・ 研修で学んだ治療方法を、私達の病院で実行することが可能であると思う。
- ・ 今回得た知識や新しい手法は私の将来の研究に大変有益なものである。これらの成果は、旧ソビエト連邦の広い範囲(チェルノブイリ、南ウラル、セミパラチンスク等)で、放射線事故により被曝した人々の被曝線量の決定や医学的危険性の測定に活用されることになるだろう。
- ・ 婦人病塗末標本の観察、腫瘍病の見られる診断用プレパラートの観察など、日本で学んだことは、私の日々の仕事に欠かせない存在となっている。
- ・ 現在では前癌または癌の診断がより容易になった。

(2) 研修で学んだことのうち、現在特に役立っていること

- ・ 被爆者医療を支援する主要な機関と関わりあいを持つことができたことや、広島大学病院内科で得られた知識を活用している。
- ・ 原医研の最新のEPR機器を使用して、セミパラチンスク地方で採取された歯の試料を使った被曝線量測定を行ったこと。
- ・ 研修で学んだ全ての理論、実習の知識を、自分の仕事にいかしている。
- ・ 細胞形態診断に関する全ての知識。

(3) 研修で学んだことに関連して現在困っていることや、今後受けてみたいHICARE研修

- ・ 被爆患者の健康状態に関して常に知識を得たり、新たな治療方法に関して指導を受けたい。
- ・ 放射線医学研究センター(ロシア・オブニンスク市)は、放射線事故後に被曝による疾患の危険性がある人々のために、EPR線量測定の試料の調査や採集を継続して収集することが必要である。原医研はこの分野で多くの知識を有しており、将来的に原医研との連携が継続することを強く希望するとともに、HICAREの支援を希望している。
- ・ 形態学に関するプログラムに興味がある。

(4) HICAREからの情報提供

区分	人数	割合 (%)
A 必要である	4	80.0
B 内容による		
C 必要ない	1	20.0
計	5	100.0

(5) 提供を受けたい情報の内容

- ・ 放射線被曝事故での線量推定に関する情報や被曝による医学的影響。
- ・ 免疫組織化学法を含む、腫瘍病病理形態学研修コースに関する情報が欲しい。
- ・ 私は、放射能問題は世界中の問題であって、一つの国又は民族に止まらないことだと思う。だからこそ、被爆者の社会的状況や健康状態に関して、常に新しい知識を持ちたいと思う。